

町長と語るタウンミーティング 議事録(概要)

日 時：令和7年10月27日(月) 19:00～20:10

場 所：稲美町立コミュニティセンター ホール(役場新館4階)

テーマ：住民協働～みんなでつくる稲美町～

参加者：3人(うち、子ども0人)

【司会】

それではただいまから、町長と語るタウンミーティングを開催させていただきます。

このタウンミーティングは、稲美町の今後のまちづくりについて、住民の皆さんと町長が直接意見交換を行う場として設けさせていただいている。今回のテーマは「住民協働～みんなでつくる稲美町～」。活発な意見交換ができればと考えている。

【町長】

今日は、タウンミーティングにご参加をいただいて本当にありがとうございます。

このタウンミーティングは、年に4回、平日の夜や土日の昼間などに形を変えて実施している。今回は、「住民協働」というテーマであるが、いろいろなお話をしたいと考えている。さて、今年は町制施行70周年ということで、特に住民の皆さんがいろんな活動や挑戦をされている。町としても、その取組が実現できるよう、できる限りの支援をさせていただいている。

今日は、70周年記念事業として実施された事業のうち、住民の参画があったものを3つ紹介させていただく。

1つ目は、プロ将棋士7人による70面指し。将棋好き70人がプロ棋士7人と将棋をさしていくという企画で、このような大きな企画を70周年記念事業として町が支援させていただいた。

2つ目は、今年は戦後80周年という節目の年で、遺族会の方々が毎年やられている慰霊祭や追悼式の他に、「拝啓、おとうちゃんへ」という舞台が企画された。80歳になった遺族の方は当時戦死されたお父さんに「お父さん」と呼んだことがない方もおられ、もちろん手紙も書かれたことがない。そこで、町内の演劇グループの皆さんの協力により、遺族が書かれたお父さんへお手紙を演劇で読み上げられ、平和の重みを舞台から問いかけられた。当日は、多くの住民の方にお越しいただきコスモホールが満員となった。

3つ目は、町内の小・中学校の子どもたちが議員となり子ども議会が開催された。日頃疑問に感じていることや学校生活の中で改善してほしいことなど、稲美町を良くしたいという思いで提案していただいた。

今日は、「住民協働」というテーマで集まってくださったということは、裏を返すと、それぞれに、こんなことをやってみたいという気持ちや思いがあるのではないかと思いますので、

ぜひお聞きしたい。

【参加者】

稲美町の人口対策についてお聞きしたい。私が稲美町に移り住んだ頃は、人口が3万2,000人くらいだったと思う。今は、3万人ちょっとで当時と比べると減少している。今後少子高齢化で、どんどん子どもの数が減ってしまうと稲美町を維持できなくなる。子ども対策を重点的にやってもらいたい。

例えば、子どもが3人産まれたら、1年間に5千円とか1万円とか補助金を出すとか、また、結婚しない人の対策とか。稲美町独自の対策をお願いしたい。

2つ目として、企業誘致をしたり、農業大学を作るとかして人口を増やしてほしい。土地の問題などですぐにはできないとは分かっているが、5年先10年先でもいいのでやってみてはどうか。

【町長】

今月号の広報をご覧いただいたと思うが、現在、稲美町の人口は3万人をちょっと超えている状態である。もう少し先には3万人を切って、30年40年後には2万人というところまで減っていくと考えている。今、日本全体がそのような状況なので、大きく稲美町だけ人口が増えることは期待できない。だからといって何もしないというわけではなく、先ほどおっしゃられた、例えば子どもが生まれたら、国の支給に加え、稲美町ではさらに5万円の商品券の交付を町独自の子育て施策として行っている。それ以外にも給食費や結婚応援支援等で転入した若い世代に補助金を出している。ただ、それがものすごく効果があり、人口増加に転じていくかというとなかなか難しい時代になってきている。何もせず手をこまねいているわけにはいけないので、町としてできる範囲で子育て支援や結婚応援に取り組んでいる。

企業誘致については、国岡南交差点付近の工場跡地にショッピングセンターの建設計画が進んでいる。新たな町の活気に繋がるものと期待している。

【参加者】

人口が減ってしまうとそんなに町は困るのか。以前、稲美町に外国の人が来てくれて、大分助けられていると聞いた。また、外国人が稲美町で働いていることに驚いた。

【町長】

稲美町の人口3万300人のうち500人以上の外国人が、仕事を理由として稲美町に住まれている。人口減少社会で、全国的にいろいろ取組がなされている。人口は減っているが、一方で働いている高齢者やボランティアをしてくださっている高齢者は増えてきている。

稲美町の高齢化率は約33%で、人口の約3分の1が高齢者であるが、元気な高齢者がたくさんいらっしゃる。その方々がまちづくりやボランティアに関わってくださっているの

で、町や地域にしてみるとすごくありがたい。人口減少で子どもたちが減って高齢者が増えるというのはすごくマイナスのように思われるかもしれないが、多くの高齢者が頑張ってくれている。

また、先ほど子ども議会のお話をしたが、人口減少で子どもの数が減っていく一方で、自分の考え方を持った子どもたちが増えてきていることを実感し、すごく誇らしく、また、頼りにしている。

【参加者】

稲美町には、にぎわい創出補助金を利用したたくさんのイベントがある。昨年も大根祭りのイベントに参加した。大きい市町では感じられないほっこりした気楽に楽しんで帰ってもらえるようなイベントがあって、そこが稲美町のいいところだと感じている。

そういうイベントに参加された町外の方が、今後稲美町に住んでみたいと思うかもしれないが、ただ住むとなるとバスなどの交通手段が少なく、町内に仕事がないと暮らしていけない。

一方で、住宅が建っていくと周りの畑がだんだんなくなっていくのが寂しいという見方の人もいる。うまくバランスをとりながら、暮らしやすく楽しい町になってほしい。

【町長】

稲美町にはたくさんの田畑があるからこそ、できるイベントがたくさんある。大根祭りのような葉っぱ付きの大根を引き抜く体験は都会ではなかなかできないと思う。田畑をつぶして家や工場が建つと人が増え、税収が増えるメリットがあるが、田畑があることは稲美町なりの豊かさにつながるので、今後も守っていききたい。

【参加者】

時代の流れとともにインターネットでオンライン交流することが当たり前になっている。国際化の時代なので、小・中学生にホームステイ事業等の国際交流する機会を設けてほしい。

【町長】

幼稚園から外国人教師による英語教育を行っている。また、小・中学校生は一人一台自分のタブレット端末を持っているので、インターネットを利用して国際交流をすることはできる。留学となると高額な費用がかかるので、そこまで補助はできないが、今はインターネットを利用して、現地に行かなくても簡単に交流できる時代になっている。

【参加者】

稲美町は財政が黒字と言われているが、将来の税収の見込みを見据えたお金の使い方をしているのか。

【町長】

単年度としては黒字であるが、これから10年20年30年先となると、公共施設が古くなってくる。それを直すお金も当然たくさんかかってくるので、その分のお金も必要であるし、人口が減ってくると税収も減ってくるので、そのあたりも考えておかないといけない。また、貯金もあるが借金もたくさんある。子どもたちの将来のために、借金は残したくないので、将来のことも考えながら財政運営をしている。

【参加者】

稲美町のことがもっとうまく宣伝できたら、稲美町を気に入って住んでくれる人も増えるのではないかな。

【町長】

町として、情報発信は頑張っていきたいと思っているが、住民の皆さん一人ひとりが稲美町のいいところやイベント情報等をどんどん発信していくことで、稲美町のファンがもっと増えるのではないかと考えている。SNSが普及したことで、個人としても写真や動画を利用した投稿が簡単にできるようになった。住民協働ということで、稲美町の良さを皆さんと一緒に発信していきたいと思う。

【司会】

それでは本日のタウンミーティングは、これで終了とさせていただきます。事前にアンケート用紙をお配りしているので、ご協力いただける範囲でご記入いただき、ご提出をお願いしたい。